

# 震災から5年 未来創造塾塾生たちの 今日まで、そして明日から



**【出席者】（写真：左から）**

川村 勝浩 様（岩手銀行執行役員地域サポート部長・いわて未来づくり機構東北未来創造イニシアティブ作業部会座長）、前川 寛 様（合同会社ZEN PROJECT代表）、志田 豊繁 様（株式会社海楽荘代表取締役）、高橋 真裕（一般財団法人岩手経済研究所理事長・未来創造塾副塾長）、君ヶ洞 剛一 様（有限会社ヤマキイチ商店専務取締役）、菊地 広隆 様（有限会社小島製菓代表取締役）

**【司会進行】** 菊池 信弥（一般財団法人岩手経済研究所常務理事事務局長）

（釜石市青葉ビル1階研修室にて開催）

**司会（菊池）** ただいまから、「震災から5年 未来創造塾塾生たちの今日まで、そして明日から」というテーマで座談会を開催させていただきます。

東日本大震災の発生から1年後の平成24年4月、被災地の復興、そして、東北の人たちが自分たちの手で未来に向けた創造に挑戦する「東北未来創造イニシアティブ」が経済同友会などの協力のもと設立されました。その活動の一つとして、地域のリーダーとなる人材の育成を目的に「人材育成道場」が設立され、県内では「未来創造塾」として、釜石・大槌地区と大船渡・陸前高田・住田地区の2つの地区の合同で開催されています。

今日は、その未来創造塾OBの4名の方々と、東北未来創造イニシアティブの中核発起人であり、未来創造塾の副塾長でもあります当研究所理事長の高橋真裕、そして、「いわて未来づくり機構」の東北未来創造イニシアティブ作業部会の座長である川村勝浩岩手銀行執行役員地域サポート部長にお集まりいただいております。

震災から間もなく5年を迎えようとしておりますが、塾生OBの皆様は、未来創造

《東北未来創造イニシアティブの概要》

◇東北未来創造イニシアティブとは被災地の復興と未来創造の鍵を握る「人づくり」を「地域のクロスセクター連携」と「全国の民間有志の協働」により実現し、日本全体のロールモデルとなり得る街づくり・産業づくりに寄与せんとする2012年から5年間の協働プロジェクト。

【代表発起人】

大山健太郎 アイリスオーヤマ代表取締役社長、東北ニュービジネス協議会会長

大滝 精一 東北大学大学院経済学研究科教授

【中核発起人】

高橋 真裕 岩手銀行 代表取締役頭取（当時、現会長）

米谷 春夫 マイヤ 代表取締役社長（ほか全国から7名）

【発起人】全国から80名以上

◇人材育成道場・未来創造塾

塾長 大山健太郎

副塾長 高橋 真裕（釜石・大槌地区、大船渡・陸前高田・住田地区）

米谷 春夫（大船渡・陸前高田・住田地区）

塾で何を学び、そして、それを今どう活かしているのか、また、今後の被災地の将来に、ご自分自身はどう関わっていくのかといったことを中心にお話をお伺いしたいと思います。

それでは、はじめに高橋副塾長から、未来創造塾が開講されるに至った経緯について簡単にご説明いただきたいと思います。

高橋 全国の企業人が被災地に何ができるのかを考えたとき、時間はかかっても、やはり最終的に人づくりをしていかなければ、被災地の真の復興は実現しないだろうということが大きなテーマとしてありました。では、具体的にどういう形で人づくりを実現していくのか。被災地は、当然、大変疲弊しているわけで、そこから人が育つのを、ただ待っているだけでは、時間がかり過ぎてしまいます。そこで、全国から有志が集まって、地域の自治体をはじめ、さまざまな組織、団体と協働して、人づくりに一緒に歩もうと「未来創造塾」を立ち上げたのです。

3期生が昨秋卒業しましたが、私は、1期生から3期生まで見ている中で、人間というのは短期間で非常に成長できるものだと感じています。当然、自分の会社をよくしていく原動力になっていると思いますが、やはり自分たちの事業は、地域があつて初めて成り立つのであり、地域をよくすることが、必ず自分たちにはね返ってくる、そういった、地域を考えるきっかけにもなっているのではないかと私は考えています。

自分の事業だけでなく、地域のこと

あわせて考えながら自分が成長していく、つまりリーダーとしての役割を自覚し、一回りも二回りも大きな人間に成長していく、そういう一つのきっかけになっているのではないかと考えています。

未来創造塾に学んで  
格闘と挑戦の日々

司会 それでは、塾生の皆様に、自己紹介とあわせて、現在取り組んでいる事業の内容についてお話しいただきたいと思っています。

一番手は、未来創造塾釜石・大槌地区第1期生で、「泳ぐホタテ」など三陸海産物のブランド化に取り組まれ、昨年8月から、横浜の老舗中華料理店の香港店向け輸出も開始している、釜石の有限会社ヤマキイチ商店の君ヶ洞さん、お願いします。

君ヶ洞 ご紹介いただきましたように、私もでは三陸の海産物をホタテに特化して、全国の消費者に直接、通信販売しております。

また、それに加え、海外も含む飲食店の方々と一緒に「食」に関する取り組みを強化するという目標を、未来創造塾で立てましたので、そこに邁進しています。まだまだ道半ばですが、今後、3期生、4期生が

らも刺激を受けながら、目標達成に向け頑張っていきたいと思っています。

**司会** ありがとうございます。飲食店と一緒に食に取り組むというのは、具体的にはどういったことですか。

**君ヶ洞** 当初は通信販売が主で、飲食店との直接的な関わりはなく、人のご縁で始まったのですが、刺身にこだわりのある首都圏の高級居酒屋で、うちのホタテを使った「三陸『泳ぐホタテ』の○○」というメニューを出してもらった、ホタテの生産者など三陸の背景が伝わるような提案をしています。そうすると、うちの「泳ぐホタテ」だけではなく、「三陸のホタテ」、ひいては三陸の海産物全般にいいイメージが生まれます。百貨店とも取り組んでいますが、「泳ぐホタテ」はうちの大切な商品ブランドではあるけれども、お客様には「三陸のホタテ」と説明したほうが受け入れやすい。そうすると「あっ、三陸って、こういう立派なものがとれるんだ」と認知されます。こうしたことは時間をかけてやっていくことが大事だと思っています。

**司会** 一つのストーリーをつくるのが、付加価値になるのですね。



君ヶ洞 剛一 氏  
有限会社ヤマキイチ商店 専務取締役

**君ヶ洞** そうです。北海道のブランド力には三陸全体としては、まだまだ敵いません。ただ、うちのホタテに関しては絶対、北海道のものに負けませんし、それ以上の値段で販売できています。それをもっと地域に広げていきたい。地域がブランド化できれば、皆さんももっと楽に商売ができます。そうすれば、北海道もすばらしいのですが、三陸は三陸で、消費者からきちんとした評価をいただけるようになりたいと思います。

**司会** ありがとうございます。

続きましては、大船渡・陸前高田・住田地区の第1期生で、平成26年7月に大船渡温泉をオープンした株式会社海楽荘の志田

さん、お願いいたします。

**志田** 大船渡温泉をオープンして、1年半ほどになります。当初は、朝4時、5時から始めて夜12時過ぎまで、いろいろ準備したり、片づけたり、本当に一生懸命やっていたのですが、なかなか思うようにいきませんでした。「やらないで後悔するよりも、やって後悔したほうがいい」と言いますが、覚悟していたとはいうものの、やって後悔していました、ずっと（笑）。

そうして最初は、お客さんからのクレームも多かったんですが、その後だんだん少なくなると、そのうち今度はほとんどお客さんが増えてきて、「料理がよかった」などと言われると「ああ、やってよかったな」という気持ちになってきました。現在では、客室の稼働率は85%ぐらいになり、大船渡に戻ってきた弟と、兄弟二人で一生懸命やっています。私は、中学校の卒業文集に、将来うちの民宿海楽荘を「国際海楽ホテル」にして、どんどん海外の人たちにも来てもらいたいと書いたんです。ですから、大船渡温泉をオープンして夢が叶ったのではなく、これから一生懸命やってもっと大きな夢を叶えていきたいと思っています。



**司会** やって後悔したということですが、一番大変だったのはどういうことですか。

**志田** いろいろ予算がオーバーしてしまい、最初は、設備などなかなか充実できませんでした。その分知恵を絞り、買えない物は自分たちで手づくりするなどして、お客さんの希望に応じてきました。当時は、お客さんの声が聞こえると「また何かあったんじゃないか？」とびくびくしてたんですが、最近では、従業員ともども余裕が出てきたと思います。そういう面では、1年目でここまで来れたので、2年目、3年目、そして10年も経ったら、うちの大船渡温泉はどこまでよくなるんだろうと思って（笑）、今は楽しみです。

**司会** ありがとうございます。

続きまして、釜石・大槌地区第2期生、「高齢者が元気に天寿を全うできるまち」をビジョンとして、昨年5月に釜石で「デイサービスセンター善」を開業されました合同会社ZEN PROJECT代表の前川さん、お願いします。

**前川** 会社は一昨年の12月11日に設立しまして、まさに未来創造塾2期生の卒業式の直前でした。卒業式での事業構想発表もあ

り、そちらの準備もしながら、会社の設立もという、文字通り目が回るような忙しさでした。何とかメンバーもそろい、昨年5月18日に釜石市平田地区で、デイサービスセンター善を開所しました。今はようやく落ちついて、お客様からも評価していただき、本当にやってよかったなと思っています。

私は、「高齢者が天寿を全うできるまちづくり」ということで、最終的に介護事業を通してまちづくりに貢献していきたいという事業構想を持っています。デイサービスはその第一歩ですが、評判を聞いて人材が集まり、この1月からは、予定よりも早

く訪問ヘルパー事業も開始しています。やりたいことがどんどん出てきており、それが釜石のまちの発展につながるように、微力ながらも頑張りたいと思っています。

**司会** 順調ということですが、利用者の人数はどのぐらいですか。

**前川** 1日の利用定員に対し稼働率は80%を超え、安定稼働に入っています。登録利用者数も目標にほぼ達しました。

**司会** ありがとうございます。

続いて、お手元のお菓子をご提供いただきました釜石市の和菓子屋さん「餅処小島かふえ」を一昨年11月に開業された有限会社小島製菓の菊地さん、お願いします。

**菊地** 今日、ご提供したのは、小島かふえという「和」をコンセプトとした和菓子中心の直営カフェで出している「みたらし、きな粉アイス」です。もともと小島製菓はスーパードーナツへの卸が中心の会社でしたが、この10年〜15年は、原材料や人件費の高騰と価格競争の厳しさから、利幅が小さくなり経営が厳しくなっていました。そこで、未来創造塾での勉強や、いろいろな方の助言をもとに、付加価値をつけられる場所、新しいマーケットを自分から作ろうと、小



前川 寛 氏  
合同会社ZEN PROJECT 代表

島かふえをつくりました。例えば、今までスーパーに卸していたお餅を、カフェでは「雰囲気の良い場所で『できたて』を提供する」というコンセプトで付加価値をさらに高め、お客様と直接繋がることで新たな利益を生み出しています。おかげさまで、1年が経過し、カフェ事業は黒字で回っています。

開業前は未来創造塾からいろいろな知識と助言をいただき、「人・モノ・金」で言う、「モノ・金」の知識が身についたと思っています。一方、開業すると実際にお店で働いてくれるのは、僕ではなくて社員やパートの方であり、「大事なものは、やはり人なんだ」ということを、身をもって感じました。人がいないと動かなければならず、そうすると、銀行に行くことも、ゆっくり机に座って次のことを考えることもできなくなってしまう、会社全体に悪影響が及びます。一方、人が元気に、楽しく、前向きに働いてくれるれば、どんどんモノもお金も回ります。だから、とにかく人を大事にしていくことが、会社にとっても地域にとっても一番いいことだと思いました。そして、人を伸ばすためには、やはり

お金も必要なので、賃金面もケアしていかなければなりません。そこで、高収益の事業に挑戦し、負のスパイラルに入っていた会社をプラスのスパイラルに変えていこうと思っています。

事業を継ぐのは本当に大変です。小島かふえは新規ですが、本体の小島製菓が50年やってきたものをすぐに切り替えることはできません。それを変えていくことの大変さを感じていますが、仲間たちと一緒に楽しみながらやっています。

**司会** 経営全体のウエイトからすると、まだ小島製菓さんのほうが大きいのですか。

**菊地** そうですね。以前は小島製菓が95%



菊地 広隆 氏  
有限会社小島製菓 代表取締役

ぐらいでしたが、今はカフェがあり、70%ぐらいに下がってきています。

**司会** では、収益も改善されてきているということですね。

**菊地** そうですね。ただ、まだまだ抜けきれていない部分もあります。

**司会** ありがとうございます。

ここまで、塾生のOBの皆さんには一通り自己紹介をいただきました。続いて、未来創造塾の運営にかかわってこられた川村座長から、これまでの東北未来創造イニシアティブ作業部会の活動を振り返って、一言お願いしたいと思います。

**川村** 私は、第3期の未来創造塾から運営にかかわらせていただいております。まず、いわて未来づくり機構について簡単にご紹介させていただきます。いわて未来づくり機構は、岩手県内で活動する各界各層の知恵や行動力を結集して、オール岩手で地域社会の総合的な発展に取り組むことを目的に、平成20年に設立された県内のネットワークです。そのメンバーは、岩手経済同友会や岩手県商工会議所連合会といった産業界、岩手大学、岩手県立大学などの教育・研究機関等々、岩手県の産学官が連携して、

震災からの復興や地方創生に向けて、お互いに知恵を出し合い実践するという組織になっております。

東北未来創造イニシアティブの未来創造塾は、いわて未来づくり機構の活動目的に合致するという事で、第1期の未来創造塾の開設とともに、いわて未来づくり機構の中に東北未来創造イニシアティブ作業部会を立ち上げ、これまで活動して参りました。私どもいわて未来づくり機構では、塾生の募集から運営に至るまでお手伝いをしております。

この未来創造塾は、たくさんの団体や企業からの支援によって運営されております。事務局には、経済同友会加盟企業からの出向者の方々が大船渡市、釜石市に常駐して運営を支えています。また、塾のセッションには、日本政策投資銀行、マッキンゼー、博報堂といった機関から講師をお迎えし、講義をいただいております。さらに、トーマツをはじめ、あずさ、あらたの各監査法人等の公認会計士の皆さんが毎回20〜30人、メンターとして駆けつけていただいております、そうした多くの関係者の厚いご支援によって運営されています。こういった

取り組みは全国的にもまれなものと思っております。

### 未来創造塾での学びがもたらした変化

司会 ありがとうございます。

それでは、ここからがいよいよ本題になりますが、皆さんが未来創造塾の塾生として、どのようなことを学ばれたのか、また、それによって自分自身がどのように変わったのかについてお伺いしたいと思います。

未来創造塾は、先ほど高橋副塾長からもありましたように、人づくりが大きなテーマとなっております。そのことを踏まえて、皆さんが塾生となる前と後で、意識や思いに変化があったのか、ということです。

再び君ヶ洞さんからお伺いします。君ヶ洞さんは、釜石の復興を考える30代〜40代のグループ「NEXT KAMASHI（以下NEXT）」の事務局長や釜石よいさの実行委員長など、さまざまな分野で、地域のリーダーとして活躍されています。塾で得られたことを今の活動にどのように生かしているかお話しいただけますか。

### 地域全体への思いを深める

君ヶ洞 一言で言うと、「思い」が深くなっ

たと思います。震災後、塾を通して全体を見る目を持てるようになりました。例えば、自分という「個」が地域という「全体」にどう貢献できるのかとか、どういった役割が求められているのかといったことが、前よりは理解できていると思います。先ほど自社の「泳ぐホタテ」より「三陸のホタテ」という表現を使ったのも、恐らく、そういうところから来ているのではないかと思っております。

司会 そもそもその入塾された動機は、どういったことからでしょうか。

君ヶ洞 今でも覚えています。イニシアティブの方がNEXTのメンバーに説明したいと、はじめてお越しいただいたとき、「何が『一流の企業が教える』だ」と、本当に失礼なことを言ってしまったのです。

あのころは、外部からいろいろな方が来て、「我々にはこれができるから、これに従え」みたいな、実際はもつとソフトな言葉を使うのですけれども、そういう自己満足的な活動を被災地でやりたいという人が多くて、私たちNEXTも少し疲弊しており、「またそういう話か。今度は、一流企業が教えてやるだろ？」ふざけるな」と感



じたのです。しかし、よくよくお話を聞き、この方たちには本当の思いがあると理解できました。そこで、「自分もチャレンジしよう」という気持ちになり、NEXTから、今日も出席している菊地君をはじめ5名が参加しました。NEXTとして、まちの若手として、こういうものをしっかり学んでいこうという思いが強かったんだと思います。

**司会** 逆に、「入塾したけれども、ここは変わらなかったぞ」というところはありますか。

**君ヶ洞** ……今すぐには出てきませんが、基本的に、私に限らず、経営者はある程度頑固というか、こだわりの部分がなければいけないと思いますが、それと同じくらい素直さも持たなければいけないと思っています。

**司会** ありがとうございます。

次に、志田さんは以前から民宿や旅館を経営され、また一方では漁師もされているとお伺いしております。改めて塾で学ぶことは新たな挑戦だったと思いますが、いかがですか。

### 頭を使って、知恵を借りて、無欲で

**志田** まず、きっかけは新聞の広告でした。大船渡温泉を建てようと準備している最中でしたので、これは参考になるのではないかと思います、すぐ電話したんです。そうしたら年齢制限があったんですよ（笑）。私は今51歳ですが、当時はまだ40幾つでしたのでまだまだ若いつもりで電話したら、年齢制限があると。しかも一番最初に応募したのが私だったようです。さらに入塾してみたら私が一番の年上で、周りには若い人たちがいっぱい来ていました。

塾では、博報堂さんとかが来て、マネジメントがどうか、いろいろ言っています

したけれども、逆に「自分なんか何やって忙しい思いばかりしてきたんだ。そんなうまくいくわけないだろう」というふうにしか思っていないませんでした。

ただ、そういった話のなかで、「仕事をするのは大事だ、でも、もっと大事なことは頭を使ってやることだ」、さらに、「人の力を借りること、その上は、人から知恵を借り、さらにその上に行けば、思い切った切り捨てることも大事だ」、そして「本当に一番大事なことは、無欲で仕事をする」とだ」という一連の話だけは「ああ、なるほどな」と、すっと心の中に入りました。

卒塾式で初めてパワーポイントを使ってプレゼンしたんです。その後、いろいろなところから講演の依頼があって、話す内容は卒塾式と同じだけど、少し高校生に合わせたたり、年配の人に合わせたたりして話しているんです。塾生はみんないろいろ勉強してきたと思いますが、一番役に立っているのは自分ではないかと思ったりしています。

**司会** 周りの評価ということ言えば、「社長、随分変わったね」といった話はされませんか。



志田 豊繁 氏  
株式会社海楽荘 代表取締役

**志田** 私自身は、海で汗かいてホタテを運

んできて、調理場に預けたら自分の事務所にこそそこそつと入ったりしていましたし、ネクタイを締めてるわけでもないから、ほかの人は誰も社長だなんて思う人はいなかったのですが、戻ってきた弟が、「兄貴」って言わないで「社長」って言うんだよね。そうすると私も弟に対して、「おう、支配人」と言い返すんです(笑)。やはり身内から「社長」と言われると、「じゃ、俺も社長になったんだな」と、だんだん気持ちが変わってきた面もありますよね。

**司会** ありがとうございます。

それでは続いて、前川さんは卒業され、わずかな期間で開業されました。そこには、創造塾で学んだことが後押しになったということはありましたか。

### 起業の土台づくりを塾で学ぶ

**前川** 私は未来創造塾に参加していませんが、今の状況はありませんでした。参加する前は、漠然と「独立したい」という思いだけで、当時は介護最大手の会社のデイサービスの管理者として仕事をしていました。しかし、震災で自分の祖父母を亡くし、介護に対する考え方や思い、いろいろなも

のがそこで変わりました。介護者として、身内に対しても、今までサービスでかわってきた方たちに対しても、「もつとできることがあったはずだ」と思い、当時の部下にも声をかけて、やれることは目いっぱいやったつもりです。ただ、そこで、目の前でやれていることと自分が本当にやりたいこととの間に差が出てきて、「ここは、もしかすると自分の居場所ではないのかな」と思いはじめたところに、未来創造塾の話をいただきました。

本当にざっくりした思いだけがあつたものが、塾の中でいろいろ構想を出しては、叩かれ、削られ、明確になっていきました。そして、一流の方々から教えをいただいたり、考える時間をいただいたり、あるいはメンターの方とお話しをさせていただいたりという中で、数字の面とか、具体的に事業としてどういう形でやっていけばいいのかが段階的に見えてきました。

先ほど塾参加中に会社設立というお話をしましたが、そこでも助けていただいた部分がたくさんあり、恐らく自分だけではうまくいかなかったと思います。また、塾でできた人のつながりも多く、それらが塾を

通して得られた財産だと思います。当時は企業の一社員で何者でもありませんでしたが、今思い返せば、考えがまとまっていなかったのが逆によかったのかもしれない。**司会** 独立したいという気持ちがあつたのに対して、その土台、考え方の基礎をつくることができたということですか。

**前川** そうです。そのとおりです。

**司会** わかりました。

続いて、菊地さんは大学を卒業して首都圏でサラリーマンをされ、震災のときは海外で仕事をなさっていました。帰郷して経験のないご商売を継がれたとき、塾での学びの成果は大きかったのではないかと思いますか。

### 経営の基本を父の代わりに学ぶ

**菊地** 震災のときにはカナダにいました。地元に戻ってきたのは、震災後、何かしたというのはもちろんありませんが、一番の理由は、父が震災で無理をして倒れ、先日他界したのですが、それで、会社がちもさつちもいなくなつたからです。日本とカナダでそれぞれ4年、営業畑をやっていたので、売ることが得意で、ノウハウも勉強していました。それで、帰ってきて



最初は、単純に売上を伸ばしたいと思い、日本全国を回りました。結局、父はずっと入院しており、話せる状態ではありませんでしたので、経営の話を父から聞けないうちに、NEXTのみんなと未来創造塾に参加しました。売上を増やすのは簡単ではありませんが、やり方次第でできる。ただ、会社にしつかりとキャッシュが残っているのか、そういった経営の本当の部分を学びたいと考えました。当時、自分にはないものこそあったので、それを教えてくれる未来創造塾は父の代わりの方でした。

小島製菓本体に加え、第二創業としてカフェをオープンするに当たり、メンターの方やマッキンゼーさん、銀行の方々の経営の視点がすごく勉強になり、そこで作った事業計画書を、そのまま取引銀行に提出しました。それで融資をしていただき事業を進めています。学んだ内容を、そのままどんどん使っていたということ、本当にやってよかったと思います。この塾がなければ、もっと大変だったと思います。

**司会** 経営の基本的な部分を学ばれたということですね。

**菊地** はい。

**司会** ご自身で、変わったと思うところはありますか。

**菊地** 基本的には変わっていないと思いますが、頭がよくなったとは思いますが、「ばかにしか見えないところ」もある。「ばかであれ」とも思っています。ただ、経営の数字に対し肌感覚が持てたことが一番大きいと思います。志田さんもおっしゃったように、僕も自分でものを運びながら、ものごとを考えるほうが性に合っています。その時々、数字をもとに、これはいい方向だとか、だめな方向だとか、考えられるようになったのは財産だと思えます。

**司会** 数字は、商売や経営の基本だと思いますから、それが役に立ったんですね。

**菊地** はい。数字をもとに、ばかでありたいと思います(笑)。

**司会** わかりました。ありがとうございます。ここまで皆さんの学んだことや自身の変化についてお話を伺いました。

さて、今、私の手元には東北未来創造イニシアティブが設立された平成24年4月当時の発起人一同が書いた宣言書「イニシアティブ設立の精神」があります。その最後

に「政治主導に頼ることなく、民間人、そして企業人が先頭に立ち、東北の復興に貢献し、自分たちの社会の未来を拓く。人づくり・街づくり・産業づくりを通じて、日本を再生する」というくだりがあります。これは、「まち・ひと・しごと創生」を掲げる昨今の地方創生を先取りしていると言えます。この人づくりの役割を担っているのが、まさにこの未来創造塾になると思います。

ここまでの塾生の皆さんからのお話を受けて、イニシアティブの中核発起人である高橋副塾長から、被災地の復興と未来創造の鍵を握る、人づくりについてお考えを伺いたいと思います。

**高橋** 人が育つ環境とはどういうことが考えられるかということですが、私はいま、4人の卒業生のお話を聞いて、これまで違った経験、経歴を積み、業種的にも全く違う方々が同じ釜の飯を食うような関係になるなかで、それが自分にとって新たな知識を吸収する、あるいは自分が成長するきっかけになっているのではないかと感じています。ですから、この未来創造塾は単に経営のスキルを習得するだけではなく、人間としてどうあらねばならないのかとい



高橋 真裕  
(未来創造塾副塾長・当研究所理事長)

うことまでを含んで成長できたのではないかと感じます。

4人に共通しているのは、新しい事業を始めたということです。経営者はリスクに立ち向かわなければなりません。志田さんは最たるものだと思いますが、大きな借金を抱えて、最初は苦しみのほうが多かったというお話でした。経営者は誰にもできないこと、要するに従業員の方がどんなに考えてもできないことを決断して、リスクをとっていかねばならないのです。そういう決断をするときに、今回の未来創造塾で学んださまざまなことが、大きく作用しているのではないかと思っています。

人をつくっていくのは非常に大変なことで、一律的なことではできません。そして、経営のコツは、教えることができないと言われており、自分でつかまなければなりません。とすると、やはりそういうさまざまな経験をしてきた人との接点が多ければ多いほど、自分がコツをつかむチャンスは増えるだろうと思っています。

それから、やはりリーダーは、その人が決断したときに、「この人が決断したことだったら私たちもついていこう」と下が思わなければ、その役割は果たせないと思うのです。リーダーの持つ人間性なり、人格なり、品格なり、そういうものが全て一つとなったとき、人はリーダーに従い、ついていこうと感ずるのだと思います。

ですから、今回のこの未来創造塾での人づくりは、そういうスキルにとどまらず、人間性あるいは人間力を身につけることで、今後の経営者としての飛躍につながるのではないかと私は感じております。

### 自分たちの学びを地域へ活かす

司会 さて、震災からもうすぐ5年を迎えます。皆さんはこの間、未来創造塾という

共通項を持ちながら、それぞれのお立場で、お考えで震災からの復興や地域振興にかかわってこられました。しかし、残念ながら被災地の現状はまだまだ厳しく、皆さんの活動や挑戦も、いまだ途上にあるのではないかと思います。

そこで、これから地域をどのように変えていきたいか、皆さんがお考えの地域の将来像、そして、そこに自分がどのようにかわっていくのかお伺いしたいと思います。今度は菊地さんから伺いたいと思います。

### まずは学びを身近なところで共有

菊地 僕の小島かふえは、市が計画・推進している釜石フロントプロジェクトの「商業とにぎわいの拠点づくり」をコンセプトとした「タウンポータル大町」というところに入っています。イオンタウンの目の前にある集合テナントで、全部で9店舗、うち被災事業者が8店舗入っています。昨年12月には、隣に情報交流センターがオープンし、さらに来年は市民文化ホールが完成します。周りには復興住宅がどんどん建ち、一度、津波をかぶったところですが、釜石市が頑張ってプロジェクトを進めており、人口密度はどんどん高くなってくると思

ます。釜石は、ハード面でも、道路やジャンクションができ、物流の中心になっていくので、人が行き来しやすい商店街になるわけです。

昨年12月の開店1周年記念では、いろいろな取り組みをしており、そこで、この未来創造塾で勉強した考え方や人のあり方を、その集合テナント全店で共有するよう努めました。未来創造塾で作った資料を持っていき、「こういうことをしたことがあります、こういうのはどうでしょう」と、ざつぐばらんに話しました。地域をどうにかするということではなく、まずは周りにいる人たちと自分が学んだことを共有して、同じ方向を見る、これが一番大事かなと思います。業種を超えて志を一つにしてやっていくことには難しさもありますが、本当にやっていて楽しかったです。これが自己満足に終わらないように、成果や達成点、そして自分たちの利益は何かをしっかりと共有して、みんなでやっていけば、地域のためになると思います。

また、そこにあこがれを持つ釜石の次の世代が、一度はまちを出ても、力をつけて戻ってきてくれればいい。復興事業ででき

上がるハードを使いこなすのは僕たちの次の世代や、さらに次の世代だと思います。今はそのための種まきの時期だと考えています。

**司会** いろいろな人がいるなか、考え方を共有し、まとめ、導いていくのは、まさにリーダーの役割だと思います。自信のほどはいかがですか。

**菊地** 根拠のない自信はいつでも持っていますので、何とかなると思っています(笑)。自分一人ではなく、みんないますから。僕は今年で34歳ですが、周りを見れば50代、60代の大御所の方々もいます。僕の最大の武器はこのキャラクターですので、何とかやっていこうと思います。

**司会** ありがとうございます。頑張ってください。続いて、前川さん、お願いします。

### 介護の目線でまちづくり提案を

**前川** 介護は日本全体が抱える問題です。それに対し、私たちは介護を通して釜石市を変えたい、介護を通してまちづくりをしたいという方法でアプローチしていきます。

釜石で介護を受けたいという高齢者の皆さんや、介護の仕事に従事したいという若者たちが集まれるようなまちづくりを、介

護のほうから働きかけて実現していきたいと考えています。介護職を志す人は、「利用者さんの思いを尊重して」とか「利用者さん主体にサービスをしましょう」ということを仕事の第一歩として学び、その理想に向かって業界に入っていきます。しかし、現場には理想を諦め、その思いをどこかに失くしてしまった介護職の方たちがたくさんいます。私たちは、そうではなく、理想とする介護をまずは自分たちが実践していきます。それを同業の方たちにも少しずつでも発信し、競争をどんどんして、いい介護サービスをやる。介護の質を上げていくということ、まずやっていきたいのです。

また、私たちはまちに利用者さんをよく連れ出します。介護のフィールドは、施設のなかだけではなく、まち全体だと思います。在宅介護の普及のため、まちも高齢者に優しい環境をつくってもらいたい。そういう観点で、いろいろな業種の方たちと連携し、高齢者や介護者の目線でまちづくりの提案ができればいいと思っています。

**司会** 介護業界では、人手不足や賃金などで課題があるとも言われています。また、先ほど利用者本位になっていないとおつ



しゃいました。そうしたなかで、前川さんの構想を実現していくのは大変だとも思いますが、どの程度のスパンで考えていらっしゃるのでしょうか。

**前川** 自分の親、あるいは自分自身が介護を受けるとき、今のサービスを受けたいかと聞かれれば、ほとんどの人が「ノー」と答えると思います。そこから理想とする状態に持つていくためには、やはりすごく長い時間が必要です。例えば自分たちが高齢者になる30年、40年後を考えて、できることには今から取り組まなければ、課題解決は難しいと思います。

また、そういう思いを継いでいく人間が必要。介護はすごく楽しい仕事で、クリエイティブで、実はいろいろなことができます。中高生や若い世代にもそういうことを伝えて、魅力発信ができればいいなと思っています。一方、やはり介護保険事業だけでは、賃金面や待遇面で課題が多い。幾ら魅力的な仕事でも、生活基盤が成り立たなくては、人は入ってきてくれません。そこで、介護事業単独ではなく、介護保険外事業、例えば、施設と売電事業を一緒にして、その収益を施設運営費や人件費に回



すというような新しいモデルができれば、もっと若い、優秀な人材がたくさん入ってくると考えています。そういうところまでチャレンジしていきたいと思っています。

**司会** ありがとうございます。続いて志田さん、お願いします。

**志田** 私は、震災が起きたときには46、47歳ぐらいだったんです。自分の気持ちの中で、いまの世の中の中心は40代、50代の自

**我々の世代が復興を牽引する心意気**

分たちの世代ではないかと思っています。ある程度経験してきて、人を引っ張ってやっていくのは我々だな。したがって震災後の復興は、まず我々がやらなきゃいけないと、ずっと思つてやってきたつもりです。

地域とか行政とかに何かやってもらおうというのではなくて、むしろ、我々が大船渡をつくっているんだという気持ちなんですよ。それで何をやっているかと言ったら、ホタテだのワカメの養殖なんだけど、そうやって生産することは、やはり国の一番の根源だろうということで、自分がやれることをやってみるんです。

私の仕事は、漁業もありますが、観光がメインです。じゃ、観光の仕事は一体「何なんだべな」と考えたときに、それは、地元三陸産のものを泊まりに来た人に出して、「大船渡に来たときに、ホタテ、ワカメおいしかった」と言ってもらおうこと。それで、家に帰ってスーパーに行ったら、たまたま三陸産のホタテだのワカメがあれば、鳴門のワカメよりも、北海道のホタテよりも、少し高くても三陸のホタテだのワカメを買って食べると思うんです。観光の仕事

というのは、このように地域を宣伝広告することなんてはないかって、最近ずっと思ってるんです。

だから、これから行政とかの力もいろいろ借りることになると思うんだけど、30代、40代の皆さんは、まだまだやらなければいけないことがいっぱいあるだろうし、死ぬまで勉強なんだろうけど、自分たちが釜石を、大船渡をつくって、引っ張っていくんだというつもりで頑張ってるほしいんです。よく茶碗洗いでいて壊す従業員に言うんですが、1日に100人も200人もお客さんがいれば、その分の茶碗洗いをして、1つか2つ壊れるのは当たり前。でも、壊さない人もいる。壊さない人は茶碗洗いでない人(笑)。仕事を一生懸命してれば、失敗することは、しょうがないと思う。だから、もし失敗しても、「これは、仕事してるからなんだな」と前向きに考える。仕事してない人は失敗もしないんだから。そういう意識で、失敗を恐れずに、皆さん、三陸をどんどん創って頑張っていきましょう。

**司会** ありがとうございます。

今、泊まりに来た人に三陸のホタテやワカメを食べてもらい、家に帰ってからそれ

を買ってもらおうという話がありました。そうすると、やはり来てもらう人を増やすことも大事になると思います。観光客を増やすための方策などについては、何かお考えになつていることはありますか。

**志田** うちの場合は、自分がワカメやホタテの養殖をしているので食材が新鮮だというイメージづくりをしています。社長が自ら船でホタテや魚をとってきて新鮮なものを出すということは、ほかではなかなかやれません。だから、三陸に来るっていうことは、魚を食べに来るということでしょうか。その時は「大船渡温泉さ行くべ」みたいなイメージづくりをしています。

**高橋** 今のお話の中の、行政などに頼らず、自分たち民間の活力でというやり方は正しいと思います。今回の震災から、いち早く立ち直った人たちは、その考え方が強いんです。いざれ補助金が出たり手厚い対策がとられるだろうと思いい、じっとそれを待っていた人は、事業の再開が遅れ取引先を失ってしまいました。生産体制が整つても、流通ルート確保に大変な思いをしています。だから、自分の力でできることをとにかく自分の力で切り開いていくということは、

大事なことだと思います。

**司会** ありがとうございます。それでは、君ヶ洞さん、お願いします。

### 次世代につなげる人材育成道場

**君ヶ洞** 会社のこと、NEXTのこと、祭りのことで、共通しているのは、私たち自身が人材育成道場になることだと思うんです。やはり誰かに貢献したいとか、地域のためにということが集まっているのがNEXTという団体だと思います。「NEXT」とは「次世代」という意味なんです。私たちは、こういう田舎町で地域の方々に育ててもらいました。東北の、特に漁師さんも含め第一次産業の方々はまだまだ所得が低いのですが、幸せて、ただお金を稼ぐだけではなく、いろいろな形があると思うんです。そうしたいいろいろな選択を、次の世代を担う子供たちができるようにしていくのが、私たちの役目ではないかと思っています。今週末もまた高校に行き、私たちが学んだいろいろなことや、今やっていることを生徒たちと一緒にディスカッションしますが、そういうことを繰り返し、一人一人が考えて、高校生にも「こうやって頑張っている大人がいるんだな」とか「田舎でも

やる気になればできるんだな」ということを示していくのが私たちの役目だと思っております。そして、私たちが結果的に人材育成道場のようになっていければ一番いい。逆に言えば、今回学んだことで、恩返しできるのは、そういうことなのではないかと思っております。

**司会** そうですね、リーダーとしての勉強をされた人たちが、次世代を担う人を育てるのも使命だということですね。

**君ヶ洞** そうです。人それぞれの示し方でもいいと思うんです。ただ、大人は、子供の視線を意識して活動したほうがじっくりいくのではないかと思います。

### 未来創造塾の精神を未来へ

**司会** 予定の時間も迫ってまいりましたので、最後に皆様から一言ずつお願いしたいと思います。

まず、塾生OBの皆さんには、未来創造塾で一緒に学ばれた各地区の同志の方々へ、あるいは東北未来創造イニシアティブの趣旨に賛同されて被災地のサポートを続けている地域外の有志の方々へ、いずれか、もしくは両方に向けてメッセージをお願いします。

したいと思います。

君ヶ洞さんからお願いできますか。

### 塾への感謝、地域で恩返し

**君ヶ洞** 私たちは、震災があったおかげ、と言っただけじゃないかもしれませんが、震災があったのは事実ですから、それによって未来創造塾という人材育成道場で出会い、勉強させていただきました。先ほど言ったとおり、勉強したことを地域に還元していくことが、日本だけではなくて、ひいては世界にも通じる恩返しの仕方だと思っています。

**司会** 各地区の同志の方々も同じような意識、思いを持って進んでいこうということですね。

**君ヶ洞** 3期生の卒業式も拝見しましたが、やはり、突き詰めていけば、皆さん、最後は同じような気持ちになるんですね。あとは、やるかやらないかという話だと思います。そういう意味では、人って根っこ部分は同じなんだなと感じます。そういうことも、今回、塾を通して感じることできましたので、本当にありがたい機会だったと思います。今度は、私たちが地域で目標とされる人になっていくことが恩返しだと思えますので、皆さん頑張ってい

ましよう。そして、携わっていただいた講師や、賛同していただいたの方々には本当に感謝しかありません。ありがとうございます。

**司会** ありがとうございます。志田さん、お願いします。

### 貪欲に勉強を継続

**志田** 繰り返しになりますが、無欲でこつこつと一生懸命に仕事を頑張りながら、地域を自分たちがつくっていくということを常に気持ちの中に入れてやっていくためにも、今回の塾で勉強したことはとても参考になるし、これからずっと必要なことだと思います。覚えられることはどんどん覚えて、死ぬまで勉強ですから、とにかく貪欲にいろいろな知識を頭の中に詰め込んで、今後の地域づくりに生かしてもらえたらと思います。

**司会** ありがとうございます。

では、前川さん、お願いします。

### これからも交流を深めて

**前川** 未来創造塾の大山塾長が最初におっしゃっていた、「ピンチはチャンス」という言葉がずっと頭に残っていて、今回、震災という出来事が起きてしまったのですが、



ただ、それによって、今まで目を向けてこなかった地域課題の解決に向け、この未来創造塾を通して一緒に取り組んでいく仲間がたくさん出会えたのは、すごく大きなことだと思っています。それぞれの分野で取り組み方は違うと思いますが、手と手をとってやれば、自分も相手もやりたいことができていく。それが、地域のため、日本のためになっていくと思います。そういった意味でも、介護の世界からちよつと視野が広がりました。塾生たちともどんどん交流して、いいものを一緒につくっていかれたらと思っています。今後とも、皆さんどうぞよろしくお願ひします。

司会 ありがとうございます。  
最後に菊地さん、お願ひします。

### ヨコの繋がり、タテの繋がり

菊地 頭がまだまだ空っぽというか、乾いたスポンジの状態のときに、すごくいい水を吸収できたと思います。NEXTのメンバー以外の同世代の仲間たちと出会えたのは本当に財産になりました。30歳でのこの経験を、これから何十年も活かしていくのであれば、本当に大きいものだと思います。イニシアティブや、サテライトの皆さん、

本当にありがとうございます。これからも、頑張りますので見ていてください。必ず次の世代につなげられるように、そういう自分になるために、試行錯誤して行きます。今後横のつながりを大事にし、それを縦のつながりにつなげられるように頑張っていきたいと思っています。

司会 ありがとうございます。

続いて、川村座長には、塾生OBの皆さんの今後の活動や挑戦に対して、激励の言葉をお願ひしたいと思います。

川村 私は震災の直後の2年間、岩手銀行の大船渡支店長を務め、まちの復興を見つめてきました。志田さんからホテルをやり



川村 勝浩 氏

岩手銀行執行役員地域サポート部長・いわて未来づくり機構東北未来創造イニシアティブ作業部会座長

たいと最初に聞いたときは、事業計画書も途上でしたが、その後、志田さんがこの人材育成道場を経て事業構想を練り上げ、立派なホテルをつくり上げたのを拝見し、非常に感慨深く思います。

イニシアティブの精神に、「震災前のように戻すのではなくて、より活力のある地域やまちをつくるべく」というものがあります。この未来創造塾が、そうした精神に沿って充実した活動を繰り広げているのは心強いことだと思います。

昨年の11月15日に第3期の卒業式が行われ、釜石、大船渡、陸前高田、住田からの14名の塾生の方々が、半年間をかけて練り上げた事業構想を、見事にプレゼンテーションして巣立っていきました。今年が最後の4期生ということになりますが、皆さんが連携して進んでいただきたと思います。一方で、まだまだ壁にぶつかるところもあると思います。そのときには、いわて未来づくり機構としても、いろいろな形でバックアップをしたいと思っています。皆さんのこれからのリーダーとしての活躍を期待しております。

司会 ありがとうございます。

未来創造塾は、本体の東北未来創造イニシアティブの活動と同様、平成28年度で終了することになっています。本日の座談会の最後にあたりまして、高橋副塾長から、これまでの活動に続く今後の東北あるいは岩手の未来創造への取り組みについてお考えをお聞かせ下さい。

**高橋** 今、4人の方から、一生の財産を身につけることができたとか、あるいは、これを次の世代にも引き継いで恩返しをしていきたいとか、さまざまな思いを語っていただきました。感じるところは、やはりこの未来創造塾によって、ものすごく人が育った、未来創造塾が当初目指していたかなりの部分が、実現できているのではないかとこの思いを今日は受けました。ぜひ皆さんには、今の熱い思い、志を持続させて、皆さんの背中を次の世代に見せ続けてほしい、そして、次の世代に着実にバトンタッチしていただきたいと思います。それから、このように非常に大きな成果を上げている東北未来創造イニシアティブも含めた未来創造塾ですが、司会からも話があったように、その内容が今の地方創生の「まち・ひと・しごと創生」と非常に似

通っており、先行モデル的なものになっている。もともとこの東北未来創造イニシアティブの理念は、日本再生のロールモデルになっていくということですから、まさにそれが実現してきているのではないかと思います。ですから、非常に大きな役割を果たしているし、これからも大きな期待をされている事業ですから、私としては、何らかの形でこれを存続させていくことができれば、そういう方向に持っていきたいと思っています。

しかし、皆さんがご存知のように、非常に多くの協力があつて初めて成り立っている事業ですから、いつまでも同じような形でということとは難しいと思います。ただ、今後は、1期生や2期生が塾をリードするような形でかわりを持っていただきながら、地元でそういったことを進めるのも一つでしょうし、また、われわれもその中に入って、何らかの形で協力していくことも可能だと思います。形態はどうあれ、せっかくこういう事業が4回にわたって行われるわけですから、これからもある程度の期間、もう少し続けられるように努力していきたいと思っています。



(司会) 菊池 信弥  
(当研究所 常務理事事務局長)

**司会** ありがとうございます。

本日は、地域の未来の創造に向けたさまざまなお話を伺うことが出来ました。

皆様が足元をしっかりと見つめて、将来のことをお考えになり、力強く活動されていることを強く感じました。震災からの復興はまだまだ途上でございます。だからこそ、これからの担う民間のリーダーとして、塾生の皆様方のご活躍が期待されているのではないかと思います。

皆様方のますますのご活躍をご期待申し上げます。本日の座談会を終了させていただきます。

本日はありがとうございます。